188cm 観測室の移動

増田 盛治 (国立天文台岡山)

1 はじめに

HIDES の観測は、2002 年 7 月からドーム内クーデ室横の組立調整室（旧計算機室）ではなく、1 階待機室横の観測室（旧測定室）から行うことになった。

2 移動の目的

- ドーム内無人化によるシーイング向上。
- 望遠鏡下通行による事故の防止。
- Super-OASIS, ISLE などの観測装置の保守開発用実験室の確保。
- リモート観測へのステップ。

3 移動にあたっての方針

- 当面は HIDES の観測のみを考えるが、他装置も視野に入れておく。
- 保守（及び、万が一の時の保険）のため、元のように組立調整室からも操作できるようにする。
- Windows PC には KVM 延長器を導入。
- 1 制御 1 画面、広い作業スペースの確保など、ユーザーフレンドリーに。

4 現状

これまでのところ大きな不具合は無く、（予想以上に）順調に観測できている。
持ち込み装置を考えていて、観測室からの操作を希望される方は、私の方までご連絡を。

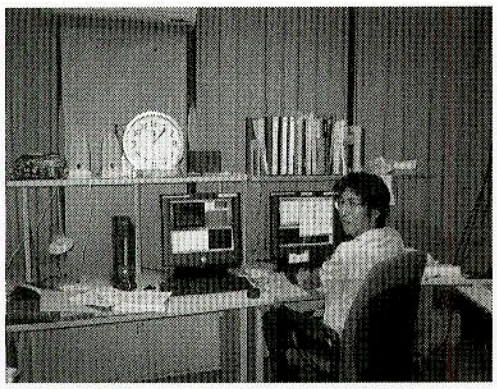
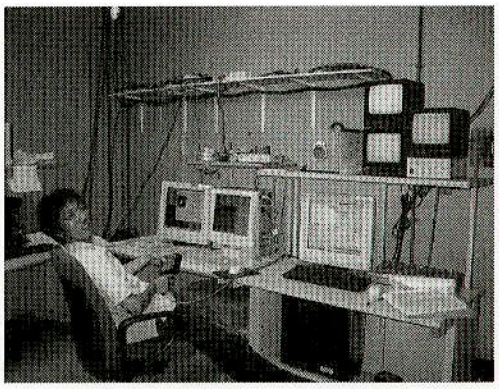

図 1: 観測室での観測風景（モデルは東大の佐藤文衛君）。左の写真には分光器制御やデータ確認のためのコンソール類が、右の写真には望遠鏡制御やガイド系のためのコンソール類が写っている。

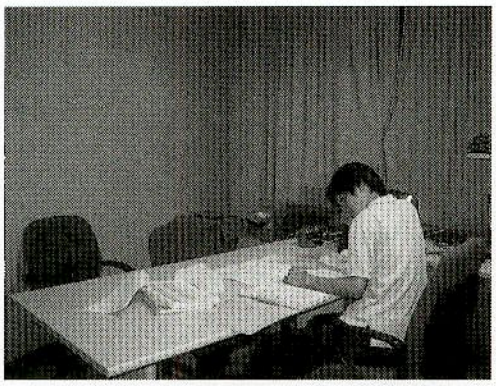

図 2: 観測室の作業スペース。図 1 の写真の左側に十分な広さの机を用意した。

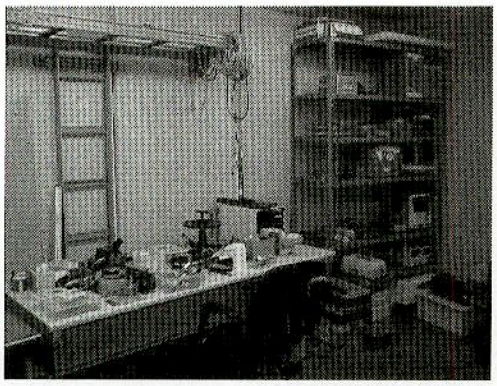
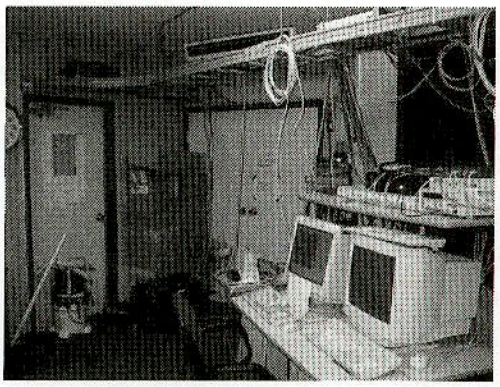

図 3: 組立調整室の様子。左の写真のように工具棚などが置かれ、実験室に生まれ変わった。右の写真には HIDES の保守用コンソールが写っている。